

会議名称	令和元年度第2回門真市文化芸術推進審議会
開催日時	令和2年2月17日（月）午前10時から午前11時30分まで
開催場所	門真市役所別館3階 第2会議室
出席者	（委員） 清澤委員、朝倉委員、本田委員、雨森委員、中出委員 【出席人数5人／全7人中】 （事務局） 水野市民生活部長、山田次長 花城文化・自治振興課長、文能課長補佐、柴田主査、 空本係員、市瀬係員、NPO 法人トイボックス栗田理事
議題 （内容）	・アンケート調査集計結果について ・「門真市文化芸術推進基本計画」（構成案）について
傍聴者数	1人
担当部署	（担当課名） 市民生活部 文化・自治振興課 （電話） 06-6902-6034（直通）

【事務局】

定刻になりましたので、令和元年度第2回門真市文化芸術推進審議会を開催いたします。

まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。

一番上に、「次第」、次に資料1としまして、「門真市の文化芸術に関する市民アンケート調査集計報告（速報）」。次に資料2「門真市文化芸術推進基本計画（構成案）」。続きまして、最後に資料3、「門真市文化芸術推進基本計画（素案）」以上です。資料に不足等はございませんでしょうか。

会長、進行をお願いします。

【会長】

それでは会議を始めます。まず、事務局より次第に従いまして説明をお願いします。

【事務局】

前回の会議から期間が空きましたので、案件1の「アンケート調査集計結果」へ移る前に、計画策定に向けての市としての考え方等、前回の会議までの確認と、今後の流れについて説明させていただきます。

今回の計画づくりにあたっては、人口減少の時代だからこそ、文化芸術あふれるまちを目指そうと、門真市全体で文化的な視点を持つため、庁内の横断的組織として庁内検討委員会を設置し、計画の骨子案を昨年1月に作成、庁内検討委員会としては具体施策を検討し、関係団体、市民の意見を取り入れるため市民100人会議の開催やアンケートの実施を通じて、市民の意識、ニーズを探ってきたところです。

さらに、計画づくり自体を文化・芸術活動の拠点であるルミエールホールの

指定管理者に担ってもらうことで、計画の内容、取り組むべき課題を知ってもらい、計画の中に盛り込むべき課題を見出そうと、この一年間進めてまいりました。

そのような中、委員各位には、前回、昨年 11 月 15 日に開催いたしました、第 1 回審議会におきまして、骨子案に基づき作成した具体施策等をご覧いただき、計画策定の考え方と計画の基本となる 4 つの柱について、その優先順位や、計画の中で追記すべき視点についてご意見をいただきました。

今回は、前回の会議後に実施しました、市民アンケート調査の集計結果についてご説明した後、計画全体の構成についてご意見を賜りたいと考えています。

なお、資料 3 「門真市文化芸術推進基本計画（素案）」については、未確定の部分が多く、今後、内容を順次追加する予定としており、あくまで現段階のものとなっています。今回はイメージとして捉えていただき、次回以降の会議で改めてご審議いただきたいと考えています。

それでは、アンケート調査の集計結果について説明していただきます。

【事務局】

資料 1 をご覧ください。アンケート調査の集計報告、速報ですが、結果報告です。こちらに沿ってアンケート結果を説明します。

これまでの審議会で、アンケート調査をするのであれば、なるべく件数を多く、幅広く調査をし、高校生等にもアンケートが取れるようなものが望ましい、というご意見を頂戴していました。

今回のアンケートでは、1,470 件の回答を得ることができ、門真市の人口と比較すると 1 %を超えて、1.2%程の数値となります。世代に関しましては、下は小学生から、上は 70 代まで、幅広く市民からの回答を得ることができました。

今回は大きく 2 つの方式でアンケートを行いました。一つは、従来も行って、市民の無作為抽出や、市職員対象のアンケート調査を行いました。市民に関しては、無作為抽出で郵送により 1,000 件発送して 188 人分、18.8%回収し、市職員に対しては 672 件配布して 404 件、約 6 割、60.6%回収しました。

今回の特徴は、この他に市内の文化芸術団体からの回収数が 176 人、それから、なみはや高校と門真西高校、市内 2 つの高校へも配布を行い、445 人の方に回答いただきました。

もう一つ、文化祭、その他イベント会場において、対面型でヒアリング調査を行いました。門真市文化祭は、4 つのイベント会場で小学生が参加するようなダンスのイベントからご高齢の方が中心のイベントまで、併せて 243 人の方から回収しました。

この中で一番大きな特徴が NPS 方式というアンケート調査方法です。ネットプロモータースコアという、マーケティングの世界でよく利用される調査で、一般的には企業や商品のロイヤルティがどれだけ効果を持っているかを測るものです。アンケート調査の結果を見ていただくと、0～10 まで 11 段階の数字、

回答項目が並んでいます。具体的に言うと、0～10の11段階で点数をつけましたが、重要なのはこの中で8、9、10の高得点をつけた方です。それが何%程度かを絞って再整理したものが、19ページ以降に記載しているものです。

このNPSというものは、何%、何ポイントという数字が出ていますが、この数字を見て高い、低いという評価をすることが難しいデータです。このポイントは例えば、他市で同じような調査をされた場合に、比較したいと考えています。例えば3年後、5年後に門真市での文化のイメージ、施策の効果を測定するために、同様の調査を行った場合の数値の変化を比較するため、今回は初回と位置づけて行ったものです。今回に関しては、これ自体が単独で高い、低い等はあまり関係がありません。その点だけご了承ください。

今回は、あらゆる方にアンケートを取りましたが、約半分が日頃から文化活動をされている方で、それは文化活動団体や、文化祭の場で集めたものだと思います。残り約半分程、無作為の郵送で回答された市民の方や、それ程文化に関心のない層であったかと想定される高校生、それらが混じっている統計データとなっています。

最後の特徴として、文化的活動は何かというところで、皆さんに意見をお伺いしています。例えば、「家や職場で花を飾る」や、「音楽を聴く」ということが、どれくらい文化的な活動なのかを感覚的、直観的に点数を記入していただいています。ご覧いただくと、多種多様な活動が文化的活動だと認識されていること、人によってその幅は非常に広いことが分かります。

9ページの5番、「門真の文化芸術活動の環境についてお聞きします。」という設問ですが、前の設問で文化的と答えたものに関し、活動されていますかという内容で、約6割の方が月1回以上は、何らかの文化活動をしていると自認している結果が出ています。門真市には文化がない、文化活動は少ないと聞く一方で、文化芸術活動、文化的な活動を月1回しているという方が半数以上いる結果となっています。

文化的活動に関してネットプロモータースコアの方式で取った結果について詳細に説明します。年代別に分けた結果をご覧ください。小学生とそれから70代以上といった数値がありますが、世代によって、何が文化的か等の認識に差があると分析できます。その差が分かりやすいのがSNSについてです。SNSを文化的と感じる方は、20代以下では20%以上いるのに対し、30代以上では急に下がります。世代によって、文化とは何かという認識で大きな違いが出ています。

世代間分析をしている中で、もう一つ興味深いのが、門真市の若者・子どもに関する文化活動の機会の設問で、「門真の文化芸術活動の環境についてお聞きします」というページで、「若者・子どもがたくさん参加している」、「若者・子どもへの文化芸術教育の機会がある」という設問があります。こちらを見ていただくと、年齢が高くなる程、若者・子どもへの文化教育に熱心ではない、取り組んでいないという方が多いのですが、10代、20代、小学生等、実際に関わっている側では高いという結果が出ています。

最後に1点、5番で門真市の「文化芸術環境」、「門真市の施策や環境」についての質問、6番で門真市の文化芸術イメージについての質問をしています。2つの数値を比較すると、門真市の文化芸術環境についてのスコアが4.824ですが、それに対し門真市のイメージのスコアが低く、具体的な施策に対する評価よりも、門真市に対してのイメージが相対的に低いという結果が出ています。そのあたりも、今後施策を推進するにあたってのポイントになると思います。

このアンケートは今後、クロス分析と細かな分析をし、施策案、推進基本計画の素案に反映していく予定です。

【会 長】

色々新しい切り口でのアンケートをしていただいているようです。

それでは、アンケートについて何かご意見やご質問等ありませんか。

【委 員】

最初にこのアンケートの結果について2点申し上げる前に、会議の資料は1週間前にはいただきたいです。できる限り早めにいただければと思います。

アンケートについて、4「文化的活動についてお聞きします。」の項目はどなたが作られたものでしょうか。

また、もう一つ設問を設けてもらいたかったのが、「家や職場で花を飾る」ということが、どれくらい文化的かという設問の他に、「あなたはそれをしていいますか」という設問が欲しかったです。設問が「思いますか」で終わっているので、それをどれくらいしているか、というアンケートを取ってもらいたかったです。

大人は子どもに対する、「文化芸術の教育の機会」があるとはあまり思っていないかもしれませんが、子どもはあるという回答が高いとあります。しかし、子どもが思っているものが、例えばSNS等を「文化芸術教育の機会」と思い回答しているのかという点が気になります。大人と子どもが思うことにギャップがあるのであれば、大人が思うことを、子どもはしているのかを比較する必要があると思います。そこがこのアンケートでは足りないと思います。

また、文化団体に属している方の回答は多いので、団体に属していない方、市民の方等、文化団体等へ属していない方に絞った回答があれば、比較した意見を述べられたと思います。

【会 長】

事務局の方からいかがでしょうか。

【事務局】

資料が遅れまして申し訳ございません。

最初のご質問、文化的活動の項目の「花を飾る」、「音楽を聴く」等に関して

は、10年前に市で行った「文化芸術に関するアンケート」の項目に準じたもの
にしています。

ただ、Youtube や SNS 等に関する項目は付け加える必要があると思い、付け加
えました。今回は前回の項目を省く作業をあえて行わず、今の時代に適当かど
うかも踏まえて今後の検討にしたいと考えています。

ご指摘いただいた、大人と子どもの認識の違いに関しては、これから先の分
析の中で明らかにできればと考えています。

文化団体等に属していない方の回答についてですが、任意のアンケートで文
化活動等をされていない方の回答はあまりいただけず、回答を集めることが困
難だという課題があります。例えば、市民の方に無作為で送っているアンケー
ト 1,000 通の回収率が 18.8% という数字から、文化に関して積極的にコミット
しようという方は多くはないという見方ができます。また高校生は、高校へ配
布し、アンケートの協力をお願いしましたが、熱心に回答されているものもあ
れば、とおろし一遍に回答されているようなものもあったので、そのような層に
対し、文化芸術活動に関わりたいと思ってもらい、関心を持ってもらうことが、
大きなテーマだと思います。アンケート結果からは、直接的、数値的には導き
出せませんが、計画の中には反映させていければと考えています。

【会 長】

いかがでしょうか。

【委 員】

今まで活動している方を盛り上げていくことも必要ですが、あまり関心がな
い方に興味を持ってもらえるようなものや、なぜアンケートに回答してもらえ
ないのかについて考えるべきだと思います。

【会 長】

他の委員はいかがですか。

【副会長】

差し支えなければ文化関係団体の 8、それから門真市文化協会はどういう構
成になっているのか、この 2 点について教えていただけますでしょうか。

【事務局】

文化関係団体ですが、主には市民ミュージカル、それからジュニアコーラス
です。

文化協会については、絵画や、パッチワーク等、様々なサークルがあります。

【副会長】

文化協会は、全部でどれくらいのサークルがある団体なのでしょうか。

【事務局】

創作の部門と芸能の部門があり、サークル数は約 100 団体で、部門だと 7、8 部門です。

【副会長】

100 団体程の方が集まり、協会としてまとまっておられるのですね。分かりました。ありがとうございます。

【会 長】

他の委員どうですか。

【委 員】

世代別に文化政策、文化振興の課題を考えると、団塊の世代、その周辺世代が今まで頑張ってきて、リタイアしかけている世代です。あらゆる文化活動の指標を見ても、レコードの販売金額等では 1990 年前後がピークです。それから右肩下がりに下がっており、一方で、音楽等は SNS 等、物的媒体ではないものが伸びてきています。

今は子どもの数が減少してきていて、文化という面から見ても、これまで積み上げてきた文化の蓄積を、どのように次の世代に渡し、引き継いでもらうかということは、我々の世代の社会的な責務でもあると思います。

そういった視点で、この世代別分析というものは面白いので、事務局の方で踏み込み、それぞれの分野について何が課題かを分析して深めていただければと思います。

例えば、「音楽を聴く」という項目ですが、中高年世代が頑張っていると感じます。これは参加率ではありませんので、確証はありませんが、推奨率がおそらくニアリーイコールだと考えると、40 代、50 代、小学生、60 代も高いということですが、一方、「美術館や作品展へ足を運ぶ。」「演劇や演奏会を観賞する。参加する。」等、参加することになると他の世代に比べて 10 代が意外に低いと感じます。このあたりはどう考え、小学生、10 代に鑑賞機会や、参加機会をどうやって増やしていくのかということが、課題として見えてくると思います。

【会 長】

どうもありがとうございました。今の意見についていかがでしょうか。

【事務局】

こちらは対面型のヒアリングをしている際の、個人的な感想ではありますが、ヒアリングを行う中で、団塊の世代より上の 70 代以上の方が、二極化している

という感想を持っています。

これは、交通の便が悪く、お家から中々出られない方と、活発に日頃から外へ出て文化芸術活動、それ以外の活動をしている方と二極化していると感じます。お家から出られない方に関する施策、複合的な問題として、交通の問題や福祉の問題も絡んでくると思いますので、どのように参加の機会に繋げていくかも大きなテーマだと思っています。

それから、小学生・中学生が音楽を聴くという活動は多いですが、参加する機会が少ないというのはご指摘のとおりだと感じています。音楽は何かしながら聴く、インターネット等は視聴するが、参加はしないのかということまで含めて精査し、参加する喜びや生の音楽の良さを伝えることができる計画にしていきたいと考えています。

【会 長】

どうもありがとうございました。

【事務局】

付け加えになりますが、現在、主に小学生に対し現指定管理者の方でアウトリーチ活動として各学校を回り、主にクラシックの音楽を聞く機会を持っています。

先日も、地域伝統文化まつりの一環として、小学生の絵画コンクールが開催されました。何らかの形で参加、参画していただく機会が必要ではないかこの数字を見て確認していますので、今後もそういったものを一緒に作っていきたいと考えています。

【会 長】

どうもありがとうございました。他はありますでしょうか。

【委 員】

私は文化協会に所属しています。文化協会は門真市の文化発展に貢献してきた、もうすぐ50年を迎える長寿の団体です。

ただ、現在は高齢化や、後継者が育たず、いくつもあった文化の美術部については教室が減ってきている状態です。絵画教室だと、募集は毎年していますが、若い方が入られてもすでに在籍している方が高齢な方が多く、すぐ辞めていかれるという状況です。

文化協会が組織的にも高齢化してきているので、市の方針として、既存のものを継続して育てていくことも大事かと思います。それに対する助言や、支援ということが後で出てくると思いますが、改善するにはどうすれば良いのか、若い世代が何を求めているのかが、このアンケートには出てきていないと感じます。

私も20代の時から文化協会で活動しており、そういう方が現在まで残り、70代になってきています。展示は高所へ上がって展示する作業もあり、それが困難になってきて、もう辞めたいと言う方もいます。そのために教室がなくなっ
ていき、本当に困っています。今後どうして行けば良いのか、その辺のことも併せてお考えいただきたいと思います。

【会 長】

具体的なご意見ありがとうございます。

【副会長】

私も同じようなことを考えていたのですが、このアンケートを基に、この計画ができると思います。おそらくその中に盛り込まれると思いますが、関心のない人にどうやって興味を持ってもらうかという言葉がありましたが、それと同時に、積極的に活動している方が何に困っているのか、何を求めている、何に満足しているのかを知る必要があると思います。

例えば、「どのくらい環境が整っていると思いますか。」という質問で、文化団体の方々だけで分析すると、また違う結果になると思います。無関心な方、積極的に活動している方、両方の視点から分析を行い、その支援をこの基本計画に盛り込んでいくということも大事だと思います。

【会 長】

アンケートを整理していただいて、かなり具体的な意見もあるかと思いますが、併せてご配慮いただければと思います。アンケート自身が一つの説得材料の基本になると思います。

前回から続けているアンケートと同じような項目もあるので、この5年10年の間でどのように変わってきたのかということも、調べていただければと思います。

できるだけアンケートに基づくという視点のもと、アンケートをベースに据えれば良いと思いますが、完全に捉われるのではなく、私どもが提案している中に、このアンケートが基本資料となるよう捉えていただくことも大事だと思います。

鑑賞についてですが、門真市は大阪市と近く、本物の鑑賞は向こうにあるので、ここでは地元中心のことも良いのではというお話が、過去に前市長からありました。しかし、市内でアクセスの問題もありましたので、やはり地元での本当の意味での鑑賞活動が必要だと思います。そこも配慮しながら進めていただければと思います。

アクセスの問題は、〇〇委員からありましたように、主催している側の改良点、それから一般の市民が求めているものを二極で検討し、文化そのものではないですが、機会作りの可能性の拡大も必要だと思います。

例えば、寺のお参りも、地域によっては送迎バスを出してお迎えすることも必要になってきているようです。交通網をどうするか、イベントの時には送迎を行う等、アクセスの問題を新しい視点で一度捉えていただくことが大事だと思います。

後のこともありますので、次の議題に移りたいと思います。

計画策定について、今後のことをスケジュール、それからその内容のことについて説明をお願いしたいと思います。事務局の方でお願いします。

【事務局】

それでは続きまして、資料2及び資料3、門真市文化芸術推進基本計画の構成案、素案という資料2点についてご説明します。

本日は、構成案についてご検討いただきたいのですが、構成案のみですと、ここへ具体的に記載することが分かりにくいと思うので、参考資料として素案を添付しています。

基本計画を策定する3ヶ年という期間で、今年度は2年目にあたりますが、来年度の審議会の2回目で、2020年度に行う事業やパイロットプロジェクト、さらに市民の方のご意見を踏まえて案を完成させる予定です。

構成案からご説明すると、今年度実施した庁内検討委員会、それから文化関係団体を中心として活動している方の意見を集約する場の一つとして、市民100人会議を開催しています。そして先程のアンケートを総括し、こちらの審議会の意見を反映させて、構成案を最終的にまとめていきたいと考えています。

まず1ページ目について、主に行政職員から成る庁内検討委員会の中で多く意見が出たことでありますが、この基本計画は硬いものになりがちで、実際に読む人はそこまで多くはないと予想されます。より多くの市民の方に見ていただくために、デザインや一般の人でも手に取りたくなる工夫を行うべきだろうという意見がありました。

そして、今後この基本計画を基にアクションプランや個々の施策等ができていく中で、多くの人を巻き込める考え方を基本計画には盛り込んでいくべきだという意見もありました。

構成案の章立てをご説明しますが、最初に、なぜ文化芸術というものに行政が関わり、進めていかなければならないのか、というビジョンを示すところから始めます。次に第1章で、策定に当たった背景や、門真市の現状を確認する。第2章で、今年度行った調査をまとめつつ、文化芸術環境、門真市が、現在どういう状況にあるのかを確認する。第3章で具体的な推進、計画の部分について、これまで検討してきた施策の柱や、概念というものを記していければと考えています。

第4章で、計画の実施と進捗の管理について、基本計画がきちりと実施されているか否かを検討する部分も計画の中には盛り込んでいきたいと考えています。「はじめに」と、この1章から4章、そして様々な資料を付けた計画案を

考えています。

資料3の素案についてご説明します。まだデザイン的な作業はしていませんが、資料3の素案の表紙にあるとおり、計画は全体で約30ページから40ページ程度、もしくは、50ページ弱になる予定です。デザイン性の高いものにということで、写真や図表を多く入れたいと考えています。

「はじめに」の部分は6、7ページです。こちらにイラストや文化芸術が進んだ時の門真市の未来の図を入れ、視覚的に小さなお子さんからご高齢の方までが共有できるようなまちの姿を表現したいと思っています。

その後、計画書に必要な、計画策定の意義や基本的考え方等のページが続き、16、17ページでは、今回の計画は、策定のプロセスで市民を巻き込んでいきたいという考えから、通常1、2年程で策定する基本計画を、3年かけて策定しているその説明を記載します。1年目の2018年度は、課題の整理や骨子案の作成、2年目の今年度は、幅広い意見の収集と整理、3年目でパイロットプロジェクトを実施しつつ、細部を詰め、修正を行い、計画としてまとめていくプロセスの説明を記載します。さらに、アンケートや市民100人会議で得た様々な意見を集約し、原案を作成、専門家の先生方に検証検討していただくまでのプロセスも記載していきます。

17ページでは、全体の流れについて記載しています。「①全体の流れ」をご説明した後に、18ページ、「②審議会」、「③庁内検討委員会」、「④市民100人会議」、「⑤パイロットプロジェクト」、「⑥市民アンケート」、そして「⑦パブリックコメント」という項目で、いつ何を行い、どのように作成されてきたのか、というプロセスを明確に示したいと考えています。庁内検討委員会が活動している写真等の資料も付けたいと考えています。

20ページから第2章で、国や大阪府の従来の調査資料や、今回の計画策定過程からの現状分析等々を記載します。市民100人会議や庁内検討委員会を実施したことを前の章で記載し、そこでの検討結果を第2章で活動ごとに記載しようと考えています。

今回は、第3章24ページからの部分が大きく関係します。「門真市の文化芸術の推進方法・基本的な考え方」ということで、「文化芸術推進のための視点」、「施策の柱と視点」、「具体的な施策」、2つ目と3つ目に関しては、今までも審議会で検討いただいていたことですが、主にこの3つについて記したいと思います。

(1)の文化芸術推進のための視点は、今回初めてご提案をします。様々な作業をしていく中で、市民のご意見、庁内検討委員会の意見で共通している視点があると感じ、それを整理することで、論点が確認できると思い、視点の整理の項目を設けました。

その項目が25ページに6項目あります。まず、「ROLE役割、担い手」、後継者の問題等も含まれますが、行政は何をするのか、行政にお金がないという現状で、市民は何をしていくのかについて記載します。そして、市外からどのよう

な形で、文化芸術の専門家に入ってきていただくのが、一つ視点としてあるかと思います。

「CHANCE 参加の機会」については、先程の交通の問題も含め、参加の機会をどのように担保していくのか、そして、市民 100 人会議で多く意見があり、賛同も集めたものとして、障がいのある方の文化芸術活動への参加の機会の担保、ということも記載して欲しいと意見がありました。

それから、「COLLABORATION 協働や共創」、協働の体制作りや、どのように協働体制をつくるのかということ、そして、第 6 次総合計画にも反映される予定ですが、共創という概念にも触れていきたいと考えています。

「PLACE 場所」、こちらに関係団体、専門団体の方から多くあった意見として、資金と場所、後継者と 3 つの課題が市民 100 人会議の結果浮き彫りになりました。なので、そういう場所をどのように作り、担保していくのかということについても記載をしたいと思います。

そして、「FUNDRAISING 資金調達」、企業を巻き込んだ資金調達、広報情報伝達といった項目があるのではと思い、挙げています。

26 ページからは、施策の柱と方向性について記載しています。こちら前回までの審議会でご検討いただいたものと大きく変更はありませんが、前回ご指摘いただいた順番の入れ替え等を行っています。

例えば、協働の部分が 1 番目でしたが、「市民の文化活動の活性化」を先にし、項目をいくつか入れ換えています。「協働の場・機会づくり」はベースの部分なので最後にし、外部の人たちが入ってくる環境を整えるということ、前方へ持ってきた構成に再編集をしています。

特に、27 ページ、2 番の 3)「アーティストの門真での活動の促進」というものは、施策として外部の人材を流入させることは重要だという意見を前回いただいたので、前方へ繰り上げて記載をしています。

32 ページから第 4 章「計画の実施と進捗の管理」、こちらに関しては、具体的に何が有効かという検討は、来年度にかけて続けていきたいと考えています。現時点では、33 ページに目標達成ツリーと記載していますが、施策の柱の中には因果関係があります。人やお金、時間が限られている中で、どちらを先に手がけるべきか、何を最優先に進めていくべきかについて、残り 1 年弱の期間で議論し、因果関係を図に示して、その中で門真市に必要な文化芸術施策を具体的に挙げ、整理していきたいと思っています。

それから、計画や施策の達成度のチェックとして、先程のアンケートの取り方、さらに中期目標として、2 年後、3 年後の理想を示し、振興計画から推進計画に変わり、より具体的に進めていくという要素を強くしたいと考えています。

【会 長】

何かご意見、ご質問等ありましたらお願いします。何かありますでしょうか。

【委員】

こちらの素案は、まず市民、文化団体、芸術団体の皆さんに提示し、ご意見いただくための第1ベース、ステップだと思いますが、そう考えると構成の仕方が少し行政的という印象を持ちました。

これは、我が国の情勢から始まり、国の動向や県の動向、そして我がまちという順番でよく行政が作るパターンだと思います。我がまちという部分をもっと前へ出した方が良いと思います。門真市はこういった状況なので、やはり文化芸術を進めていきたいという、市の熱意が伝わるような構成を考えていただきたいと思います。

10 ページのところですが、日本を取り巻く社会環境の変化という記載は、市民の方には分かりにくいと思います。そういった記載は必要だと思いますが、門真市の現状や文化の状況が後に出てきているので、それを最初へ打ち出し、門真市としては、こういった問題意識を持ち、こうして行きたいとストレートに出す方が、インパクトがあると思います。

【会長】

〇〇委員お願いします。

【委員】

あらゆる年代、立場の方に見てもらうには 30、40 ページは長いと思います。例えば、詳細なもの、子どもが見ても分かる 2 パターンを作成しても良いと思います。

私の夫は赤十字病院の国際救援部におり、国内と外国の方で救援活動をしています。阪神大震災がきっかけとなって、夫が大阪赤十字病院の国際救援部を立ち上げました。その頃を見て感じたのは、広報活動が大事だということです。寄付も募るので、院内向けと一般市民向けの資料を作成していましたが、行政的だと感じたので、字が多くて、読みにくいのではと意見を言いました。

誰が見ても分かる写真やフレーズを載せ、詳しくはホームページや SNS を見ってもらうという形式の方が、若い人達も見やすく、簡略化したものがあれば興味を持ちやすいと思います。分かりやすい言葉で興味を持ってもらえるよう、簡潔にすることが大事だと思います。

【会長】

ありがとうございます。〇〇委員いかがですか。

【委員】

門真まつりに昨年行きました、市民がすごく生き生きしていると感じました。また、文化祭、文化会館等では、周囲で婦人団体や体育協会等の方がバザーや、

お弁当を作ったりしていました。

芸術文化、文化というと、私の場合は絵画が一番に思いつきますが、そういう方が展示を目的に来られるのではなく、たまたま、展示されているから見るというきっかけが生まれます。基本計画の構成案1ページ目の最初に、文化芸術に関心の薄い市民を巻き込んでいけるような具体的なアクションプラン、という記載があるのですが、そういった他の団体との連携等は考えておられるのでしょうか。

【会 長】

これはいかがですか。

【事務局】

他の団体や、市役所の担当ではない課を巻き込みたいという議論は庁内検討委員会や事務局でもありました。市役所の他課に関しては、庁内検討委員会は横断的なものなのであらゆる課の方がいます。例えば、今後、各課へあなたの課で担当している事業の中で、文化に関わり合いがあるものをリストアップしてくださいというアンケートを取り、議論を深めてはどうかという意見もありました。

それから、関連団体の方も含めて、門真まつり等がまさしくそうですが、次年度はあらゆる方と一緒にを行うパイロットプロジェクトというものを予定しており、そのパイロットプロジェクトで基盤を作りたいと考えています。

【会 長】

他どうですか。

【副会長】

構成もよく考えられているので、良い計画ができるかと思います。〇〇委員が行政的だとおっしゃっていたように、計画は議会に提出しますし、他市が見た際に、格調高いものである必要があると思います。他の計画と遜色ないようにするため、やむを得ないとは思いますが、少し工夫をしていただきたいと思っています。

やはり文化は楽しいものなので、こんなものがあれば良いという、そんな香りが計画から漂ってくるような工夫をしていただきたいです。

個人の好みになりますが、前文で国が法律を定めたことで、本市もという書き方になっていますが、本市に必要なものからの書き出しの方が良いのではと思います。

関連して、「人口が減少しているから文化で」というフレーズが多く出てきますが、それだけではなく、文化があれば楽しいまちで、住みたくなるということで良いと思います。それがきっかけとなり、定住につながり、住んで楽しい

等、そのような表現の方が良いのではと思います。

【会 長】

全体の形としてはよく整ってきており、中身を埋めていけば良い計画になると思います。それを市民に周知していくために表現の工夫が必要だということは、各委員のご意見のとおりだと思います。

いかに普及していくかだと。最初は簡略化されたパンフレットのようなものから、次に少し具体的なもの、そしてさらに詳細なものという、3段階程度の形があっても良いと思います。

〇〇委員、〇〇委員からあったように、表現の仕方として、国がやっているから等は関係なく、市がまずリーダーシップをとってやっていくということが大事だと思います。

それから、地元の文化度が低い、関心が薄いということはあまり書かず、市として今後このような文化的、芸術的な施策を展開していきます、ということを中心にする方が良いと思います。

現状分析も必要ですし、文化の高い低いというのは様々な見方があると思います。こんな課題があるので、この施策が必要だということを前面に出すのではなく、むしろ積極的に文化を援助し、門真市を良くしていくという形で表現する方が良いのではないのでしょうか。

全体との協力関係ですが、例えばパイロットプロジェクトや、具体的な施策を中長期で展開していくということが大事で、今後、審議会でも意見を出すと思いますし、それを踏まえて、3年後、5年後にはここまで持っていくという、具体的なイメージのものを、これから議論を深めていけば良いと思います。

全体の流れとしては整理されて良い方向に来ていると思うので、その方向で今後も進めただければと思います。

他どうでしょうか、こういう方向で進めて欲しい等、アドバイスありましたらお願いします。

【委 員】

一点だけ質問ですが、通常行政の計画は、市トータルのイメージがあって、それを地域レベルで見っていくというゾーニングをされると思います。特に都市計画関係だとそういったイメージがあるのですが、この推進基本計画は市の考えでは、どのあたりまでのゾーニングのイメージがあるのでしょうか。

例えば、文化拠点があって、ここの地域はこういう特性があるので、この方向で頑張っていく等、特に密集市街地の再生等ですが、大きな課題があると思います。それとこの文化との関わりをどのように考えていくのか、そのあたりについて、イメージがあれば教えてください。

【事務局】

ご質問いただいたところですが、市全体の推進基本計画になるので、あくまでも計画ということで、ゾーニングを落とし込んだ形でのアクションプラン的なところまでは踏み込まない計画になるというイメージです。

ただ一定、ルミエールホールが文化の拠点ということで、認識しており、新しい生涯学習施設は、現在計画でも上がってきているので、そういったことには触れながらと思っていますが、具体的なゾーニングまでは難しいと考えています。

また、ご意見いただきながら、触れていけるところは触れたいと思っていますが、そのあたりは来年度以降の議論に委ねたいと思います。

【事務局】

補足ですが、今ご案内いただいた文化施設の話ですが、構成案の4ページの下から3つ目「PLACE 場所」に、駅北の開発と、既存の文化施設に関しては少し記述をする項目を設けています。

【会 長】

ありがとうございます。拠点的部分についてですが、ルミエールホール、今後整備される予定の生涯学習センター、それから中塚荘や公民館等、エリア的には分散しているので、次の具体案、試案のようなアクションプランの中でそこを中心に、どのように展開していくのかを少し謳えば、地域的なことにも及んでいけると思います。あとはまとめの中で、どこまで具体的に記載できるかということをご検討いただきたいと思います。

他いかがでしょうか。

【委 員】

先日、〇〇委員が関わられたコンサートへ行かせていただきました。先生が指揮をされた、作曲家の三枝 成彰さんのオラトリオヤマトタケルは、日本人のための第九をというコンセプトで行われたそうです。

素晴らしいコンサートでしたので、〇〇委員にコンサートと、このように至った経緯をご説明いただけたらと思います。

【副会長】

羽曳野市は、ヤマトタケルの白鳥陵という古墳があり、三枝さんのヤマトタケルを歌いたいという方がいらっしゃり、公演をしたいという声が上がりました。

ヤマトタケルは、オーケストラ、合唱と雅楽が入る演奏会を、十数年前に行いましたが、その方々が残られて、現在に至るまで歌い継がれてきました。

去年、一昨年頃に、全曲演奏を羽曳野市でやりたいということで、私が呼ばれ、再び指揮を行いました。それを産経新聞がご覧になり、シンフォニーホー

ルで演奏することになりました。演奏者全体で 300 名程、シンフォニーホール
の客席も満席になりました。

百舌鳥・古市古墳群が世界遺産となり、その記念の意味も込めて開催されま
した。これは羽曳野市の合唱団だけでなく、百舌鳥・古市古墳群がある市の合
唱団は参加しようということとなり、堺市と藤井寺市の合唱団にも参加しても
らい、さらに東京の合唱団も参加をして、郷土愛をもって開催されたコンサ
ートでした。羽曳野市の合唱団が、いろいろな方々とコラボすることによって
拡がりを持ち、一つの地域の特性が大阪の中央に出て、お披露目をしたとい
う形となりました。

演奏会も工夫をされおり、入口で埴輪の着ぐるみや、ヤマトタケルが迎え
たり、古墳の博物館とコラボしたりしていました。

羽曳野市には白鳥陵古墳があるという情熱で継続されてきており、今後も
様々な形での演奏を行っていきます。

今回、市民が活性化していく姿を見て、やはり、文化活動の団体というもの
は、本当に市にとって宝ではないかと実感いたしました。

【会 長】

それでは、また各委員のご意見を参考にいただきまして、次の段階に進
めていただけたらと思います。今後のスケジュール等もありますので、事務局
の方からよろしくお願いします。

【事務局】

本日いただいたご意見には、庁内検討委員会でも、課題として議論が出て
いた部分、重なる部分もあれば、新しい視点からのご意見もありましたので、今
後、素案へ盛り込んでいきたいと思えます。

特に、文化に関心の薄い方を巻き込むためには、PR の仕方が大事というこ
とで、計画とは違った見せ方のところで工夫が必要ではないかと、庁内検討委
員会でも意見が出ていました。そのあたりは来年度以降のテーマの一つにもなる
と思うので、またお力添えいただければと思えます。

それでは、来年度の審議会についてご案内します。来年度は合計 3 回の開催
を考えておまして、うち 2 回は素案の審議、第 3 回目は答申をいただく場と
考えています。

また、来年度は協働のプラットフォームとして、計画策定後の文化芸術政策
の担い手作り、協働基盤作りのためのパイロットプロジェクトを計画していま
す。その事例の発表会を最後にできればと考えています。予定では 7 月から 8
月頃に第 1 回目、10 月から 11 月ごろに第 2 回、1 月から 2 月ごろに第 3 回と考
えていますが、詳細な日程は委員の皆様と調整し、決定していきたいと思
えていますので、ご協力をお願いします。

なお本市では、4 月に機構改革、組織の改革が予定されており、文化芸術政

策を市民文化部の生涯学習課が新たに担当することになっています。担当者に若干の変更があるかと思いますが、委員の皆様におかれましては、引き続きご協力よろしくお願いたします。事務局からは以上です。

【会 長】

スケジュールも聞かせていただきましたし、また審議会としても、それに合わせて、ご協力させていただきたいと思います。

これで今回の審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。